

知床エコツーリズム戦略試行事業提案内容

知床野生動物エサやり禁止キャンペーン

1

提案の背景

平成24年度斜里町では知床世界自然遺産地域を中心に1,200件を越えるヒグマ目撃件数となり、ここ数年の目撃数に比べ倍増している。特に幌別・岩尾別地区における沿道では複数のヒグマを目撃できる状態が半ば常態化している。

ヒグマは知床の自然を特徴付ける観光資源として多くの来訪者を惹きつけるが、一方で、近接での撮影やエサやり等でのヒグマの人馴れが、観光地や隣接市街地の安全を脅かすため、沿道におけるエサやり禁止対策等が課題となっている。

平成24年度は知床五湖高架木道においても、ヒグマが多数目撃され、状況をわからない観光客がエサを与えてしまうと、貴重な自然体験の機会を失う可能性だけでなく、市街地の安全を脅かすことにつながりかねない。

本提案は、ヒグマが生息する観光地において観光客と地域住民の安全を守りつつ、豊かな自然を体験できるとともに、野生動物と隣接して生活する地域住民との共生を実現するために、エサやり禁止を軸としたマナー啓発のキャンペーンを実施するものである。

2

知床エコツアーリズム戦略試行提案内容

1. 提案の具体的な内容

- 1) 事業名 知床エサやり禁止キャンペーン
- 2) 事業目的 この事業は、知床に生息するヒグマ、キタキツネ等が野生動物本来の生態をとり戻すことを目標に、野生動物への餌(えさ)やり行為を注意喚起することにより、人間と野生動物が共生、共存していける環境を整備することを目的とする。
- 3) 事業実施主体 知床斜里町観光協会
- 4) 事業策定経過 観光客等に対しては餌やりをしないように、チラシ、注意看板等で呼びかけられてきたが、今だに少数ではあるが観光客等からのエサやり行為が絶えず、野生動物の保護管理を行う上での大きな問題となりつつある。このような状況が続けば、特にヒグマの場合は観光客や地域住民との大きな事故につながりかねないことから知床斜里町観光協会としてエサやり禁止キャンペーンの取組をきめた。
- 5) 事業内容 知床に関わる関係者によりヒグマと観光利用に関する共通メッセージを発信する。特にヒグマへのエサやりに関しては、その行為によりヒグマの行動を変え、観光客や地域住民への実害に結びつく可能性がある。エサやりだけでなく、ヒグマへ接近しての写真撮影も悲惨な事故に結びつく可能性があるため、正しいヒグマの知識、マナーの啓発を行う。活動例としては、以下の内容が考えられる。
 - ・ 知床に訪れる観光客に対してパンフレット等を作成し周知する。
 - ・ 宿泊施設、バス車内、観光施設においてヒグマレクチャー等の映像を放映する。
 - ・ 広報周知については、国内外の事例を参考に検討する。
 - ・ P R ツールを作成し各種プロモーション参加時にあわせて周知する。
 - ・ 沿道パトロール監視員を配置し周知活動を展開する。

3

2. 戦略の基本原則とその対応

- 遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上
観光客に正しいヒグマの知識とマナーを伝えることにより、人馴れグマの発生を抑制できれば、ヒグマ間の事故を予防し、不必要なヒグマ駆除を減らすことができ、知床の資産価値を維持できる。
- 世界の観光客への知床らしい良質な自然体験の提供
観光客に正しいヒグマの知識とマナーを伝えることにより、人馴れグマの発生を抑制できれば、一定ルール下のヒグマ観察の機会の確保や、より安全な利用地の散策機会の確保等、知床らしい自然体験を提供できる。
- 持続可能な地域社会と経済の構築
ヒグマが高密度で生息する知床において地域全体の活動の元に安定的に観光事業が実施できることは、知床の観光価値を高め、地域経済の充実に寄与できる。

3. 想定される個別部会メンバー

- ・ 知床斜里町観光協会
- ・ 知床ガイド協議会
- ・ ウトロ自治会
- ・ ウトロ地域協議会
- ・ 環境省
- ・ 斜里町
- ・ オホーツク総合振興局
- ・ 網走開発建設部
- ・ 網走建設管理部

4